

希望のひかり

智慧のひかり

Sato Koshiro

佐藤光昭

# 電子書籍の操作について

- ・ 目次をクリックすると、該当ページまで移動します。  
また、移動先ページの見出しをクリックすると、目次に戻ります。
- ・ 「十字キー」やマウスのホイールを使用して読み進めます。
- ・ 「フルスクリーンモード」に設定すると、読みやすくなります。

「フルスクリーンモード」設定方法

メニューバー「表示」→「フルスクリーンモード」

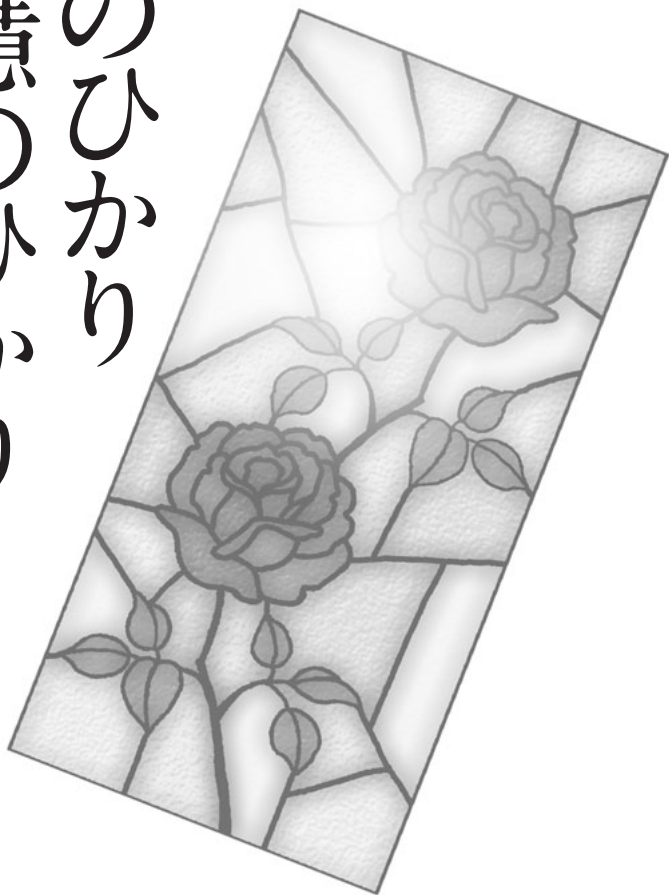
Escキーで元の表示に戻ります。

※パソコン環境により、「フルスクリーンモード」が使用できない場合があります。

希望のひかり  
智慧のひかり

佐藤光照

*Sato Kosho*





希望のひかり 智慧のひかり◎もくじ

華ひらく『般若心経』の世界へようこそ 9

第一部 希望のひかり

第一章 言霊ことだまの響き 12

第二章 万能薬・即効薬 14

第三章 花の御経おん・宝の御経 19

第四章 お釈迦様の苦しみ 22

みずからの存在に対する深い問い 22

第五章 もう一つの『般若心経』 28

第六章 なぜ観音様なのか 30

観の文字に秘められた仏様の心 30

第七章 舍利子しゃりしは私 34

## 第二部 智慧のひかり

第一章 『般若心経』の登場 38

絵に描いた餅もち 39

第二章 観音様のお答 43

色しきの世界 45

無常というルール 46

空の世界・空室あります 47

鳴門なるとの渦うず 48

第三章 回転ドア 51

即そくの一文いちぶん字じが世界せかいをを変かええる 51

第四章 二つの物差し 54

諸法しよほうという名なの色しき 54

空の物差し 55

第五章 なぜ無なのか 60

仮想現実の世界 61

苦しみの連鎖 64

お釈迦様の処方箋せん 68  
無一物中無尽蔵むいちもつちゅうむじんぞう 71

第六章 求められた般若波羅蜜多 74

覚りの一步手前 76

罣礙けいげという宝物 78

未知への恐れ 80

逆さまの物差し 82

この世の涅槃ねはん 84

第七章 諸仏の母 86

第八章 呪しゆは言霊の力 89

第九章 般若波羅蜜多の呪 92

仏様の真似まね 95

形を超えて 99

凡夫の祈り 100

第三部 ひかりの曼荼羅

	第一章	みずからを灯明に	104
		否定される自我と肯定される自我	104
	第二章	修羅 <small>しよら</small> の心	106
		地獄造るべからず	106
		心の洗い方	108
	第三章	心のコントロール	111
		角 <small>つの</small> を矯 <small>た</small> めて牛を殺す	111
		孫悟空 <small>そんごう</small> と共に	112
	第四章	回り巡らす功德 <small>くどく</small>	115
		釈迦 <small>しよか</small> に説法	117
		喜びの供養	117
	第五章	お接待 <small>せつたい</small> の心	119
		真心のやりとり	121
		無縁 <small>むえん</small> の大悲	123
	第六章	曼荼羅 <small>まんだら</small> に見る『般若心経』	128
		般若菩薩	129

ひかりの独楽こま

133

雑草という名の草・害虫という名の虫

136

第七章 アンパンマンの歌

138

美しい日本の心を世界に

141

(仏説)

摩訶般若波羅蜜多心経まかはんやはらみたしんぎよう

146

(仏説)

摩訶般若波羅蜜多心経まかはんやはらみたしんぎよう

訓読

148

絵心経

150



## 華ひらく『般若心経』の世界へようこそ

『般若心経』は、日本人の心の故郷ともいえるお経です。短い經典ながら、大乘仏教の根幹の教えが説かれていて、古くから多くの人々を救い、生きる支えとなってきました。

さらに、仏教ばかりか、神道や修験道にも取りいれられて、尊ばれてきた歴史があります。『般若心経』が本当の意味で分かれれば、仏教のめざす仏様の世界、覚りの世界が見えてくるといっても、いい過ぎではありません。

それは、大乘仏教の要となる、「空」の思想が説かれているからで、これこそが『般若心経』の、大切な表のテーマです。

しかし、仏様の教えが真に理解できたなら、そこに当然、仏様の真心・慈悲が見えてきます。『般若心経』には、慈悲の文字は一つもありませんが、この慈悲こそが、仏様が私たちに伝えたい、『般若心経』の真のテーマです。

『般若心経』をひらくことにより、この仏様の慈悲の心を汲みだして、般若波羅蜜多の真の生き方を明らかにするのが、本書のねらいです。

併せて、『般若心経』の効験の源も探ってまいります。



第一部  
希望のひかり



## 第一章 言霊ことだまの響き

『般若心経』は、強い言霊ことだまの響きを持った經典です。本来、經典は、説明のためとはいえ、細かく切り刻んで検証することを、良しとするものではありません。

『般若心経』を声に出して唱え、その音の響きの中に包まれてこそ、心が浄められ、仏性（仏と成れる性質）が華ひらいてまいります。

人々は昔から「信」を持つて、仏様の教えをいただいてきました。日本では、聖徳太子が、政治まつりごとの基礎に仏法を据すえたように、篤あつく三宝（仏・法・僧）を敬つてきたのです。

「言霊」とは、言葉に宿る神秘的な力のことです。命の宿る言葉とでもいいましょうか。古くは、「言」は「事」に通じると信じられ、良い言葉は幸いを招き、悪い言葉は災いを呼ぶとして、言葉を大切にしてきました。「言」は、「事」にも成りえたからです。

言葉に乗せる音が、事を成す、現実になるといいますから、人々が神仏に捧げる言葉である「祝詞のりと」やお経は、大変に畏れ敬おそわれて奏上されてきました。真の力ある言葉は、神仏に通じ、天地をも動かすと信じられてきたのです。

そして『般若心経』は、この言霊の力が非常に強い、仏様の真実の言葉として尊ばれ今日に至っています。

## 第二章 万能薬・即効薬

『般若心経』は、あらゆる方面に効力を發揮する万能薬であり、また即効薬です。

天下国家の大難から、天災・怨霊退治や供養、また病氣平癒・疫病を治める等々に、速やかに効きめがあるとされ、上は天皇・貴族から、下は庶民に至るまで尊び崇められてきました。

『般若心経』は、『法華経』と並んで、昔から事あるごとに写経されてきた歴史があります。

聖武天皇は、閏年の不吉を防ぐために、一年の日数分の『般若心経』を二組書写させて願経としています。

また、八一八年に日本国中に疫病が流行して多くの死者が出た時に、嵯峨天皇は、弘法大師の勧めで『般若心経』を書写されたところ、たちまち効験が顕われたとあります。奈良・平安時代の人々は、無実の罪で非業の死を遂げた者の怨霊を、非常に恐れました。宮廷の権力争いに敗れた早良親王が、淡路に流される途中で亡くなった直後に疫病が流行る

と、朝廷は崇道天皇の称号を贈り、そのうち京都の神泉苑で「御霊会」を催して、『般若心経』を誦誦し、怨霊を鎮めていきます。『般若心経』は、国家の大事のたびに誦誦され、また書写されてきたのです。京都の大覚寺は、旧嵯峨御所と呼ばれています。六代の天皇がみずから書写された『般若心経』が、勅封心経殿に納められており、『般若心経』の写経の根本道場として名を馳せています。

また、これに先立つ七五八年の、淳仁天皇の即位の勅があります。『般若心経』は、諸仏の母であり、誦誦すれば必ず福德が得られるので、すべての民は、男女老少にかかわらず、日々口が閑な時は、歩いている時でも、みなことごとく摩訶般若波羅蜜を念誦するように、という天皇のお言葉です。さらに、『般若心経』一千巻も造経なさっています。こうして一般の人々にも、広く拡まっていきました。

近年では、奈良の薬師寺の勧進写経が有名です。荒廃した白鳳時代の伽藍の復興のために、『般若心経』の写経をつのり、金堂や西塔を再建しています。このように今でも、多くの人々の志で、寺院が建立されているのです。

この『般若心経』の効験は、文学にもよく取りあげられていて、その人気の高さがしのばれます。

日本最古の仏教説話集『日本霊異記』には、急死した在家の女性信者が閻魔王の前で、

美しく清らかな声で『般若心経』を讀誦したところ、感激した閻魔王によって、この世に生き返らせてもらった話などの効験談がのっています。

『今昔物語』には、『般若心経』を訳した玄奘が、その熱い信心によって観音様から、『般若心経』を授かる話があります。またその玄奘が天竺（インド）に渡る時に、五百人の鬼に阻まれますが、『般若心経』を讀誦して難を逃れた話ものっています。

また鴨長明が編集した説話集『発心集』には、『心経』（般若心経）の経名を、真経・深経・神経だと主張する幼童が登場します。ある僧がその誤りを正したところ、夢に貴人（神）が現れ、実の法だから真経、いわれ深いから深経、神が愛でる経だから神経という、と僧を諭します。

この他、西行作と伝えられてきた『撰集抄』という説話集があります。この中には、仲算大徳が那智の滝で『般若心経』を讀誦したところ、滝が逆流し、千手観音様が出現した奇瑞譚がのせられています。

幸若舞の演目にある『百合若大臣』は、蒙古来襲を題材にした作品です。北条時宗の時代の出来事を、嵯峨天皇の御代に移して語られています。敵を迎えうつ百合若大臣が、妖術をかけられ苦戦しますが、この時、『般若心経』を船の舳先に書きつけて敵を破り、大勝利を収めるとい話です。

# 途中省略

続きは製品版にてお読みください。

## 著者プロフィール

佐藤 光照 (さとう こうしょう)

兵庫県神戸市在住。

1996 (平成 8) 年、真言宗にて得度。法名光照を受く。在家。

著書：「光と慈悲の兄弟経典 『般若心経』と『理趣経』」(2007年 文芸社)

神戸新聞文化センター講師。

## 希望のひかり 智慧のひかり

---

2011年 11月15日 電子版発行

著者 佐藤 光照

発行者 瓜谷 網延

発行所 株式会社 文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

© Kosho Sato 2011 Coded in Japan

ISBN978-4-286-10952-7

JASRAC 出11110568-101

(紙の書籍をお求めの場合には、お近くの書店にてお尋ねいただくか、文芸社ホームページ

<http://www.bungeisha.co.jp> をご参照ください。)